

基礎学力測る検定「TOFAS」



容は算数の計算。3年生では、あまりが出る割り算や3桁の足し算など基礎的な問題が出た。試験時間は40分。解答すると次の問題が表示される。「残り何分と出て焦ったけど、勉強した所の確認ができた」。受検した早坂丸那さんと松沢璃人さんは口をそろえて振り返った。

近年、入試で知識を応用する力や課題解決能力を重視する傾向が強まっている。そんな中、学習塾運営会社「スプリックス」(本部・東京都)があえて「基礎学力」を測る検定「TOFAS」を3月から始める。なぜ今、基礎学力なのか。

2月24日、東京都港区立赤羽小学校で先行実施された。挑んだのは3〜5年生。タブレット端末を使い解答する形式で、内

スプリックスは、基礎学力を「算数・数学は計算、国語は漢字と語彙、英語は単語」と定義する。「つまり、身につけていないと新しいことを吸収できない『土台となる力』です」(スプリックス基礎学力研究所の梅田修平所長)

研究所が昨夏、アジアや欧米の計11カ国で6〜15歳に計算の基礎テストを実施した結果、日本は10歳以上で1位だったが、6〜9歳は9位だった。梅田所

「土台となる力」重要に



タブレット端末で基礎学力検定に挑戦する児童たち—東京都港区の区立赤羽小学校で2月24日

長は「思考力などを重視する新学習指導要領の実施やオンライン学習の加速など変化が激しい中で、新しいことを吸収するため基礎学力はますます重要になる」と強調する。赤羽小の宮崎直人校長は「CBT(コンピュータ)を使って解答する試験」が主流になる今後を見据え、子どもたちが経験を積むチャンスになる」と受検した理由を語る。

学校で先行実施されるが、最初の検定は3月21日。米国など数カ国で実施するため出題は計算のみ。パソコンやタブレットがあれば誰でも受けられる。問題のレベルは小中学生向けに4段階に分かれ、自分で選ぶ。正答率80%以上を合格ラインに全100問を選択式で出題する。結果は後日ウェブで閲覧できる。初回は無料。申し込みは3月17日まで。対象科目は今後、拡大する。【千脇康平、写真も】